

特別活動「学校行事」

パラリンピック種目体験で共生の態度育成を ④ボッチャ

- こんな子どもの姿を期待できます
- ・パラリンピックに関心をもつ子ども
- ・スポーツは違いを超えて人々を結びつけるものであることを理解する子ども
- ・障がい者スポーツを通して様々な人々と共に楽しむことができる子ども

1 スポーツを通じたボランティア活動

特別活動「スポーツを通じたボランティア活動について考えよう」では、まず、パラリンピックの競技や選手、それを支える人々について紹介し、ブラインドランナーとガイドランナー体験を行いました。次に、ボランティア活動は、他人を思いやる心、互いを認め合い共に生きていく態度、自他の生命や人権を尊重する精神などに支えられていることを理解することができるように、パラリンピック銀メダリストの道下選手と伴走者の堀内さんに、「いっしょに走ろう」という演題で、スポーツを「する・みる・支える」の視点からお話をいただきました。

2 文化としてのスポーツが果たす役割

保健体育科体育理論の学習を行い、現代生活におけるスポーツの文化的意義、国際的なスポーツ大会の果たす文化的な意義や役割、人々を結びつけるスポーツの文化的な働きについて学びました。さらに子どもたちは、パラリンピックについて、「東京大会に向けて強

化することや工夫すること」、「リオデジャネイロ・パラリンピックのメダル予想」、「パラリンピックの種目」などをテーマにして調べ学習を行いました。

3 ボッチャの魅力に触れる

まず、ボッチャのゲームのビデオを視聴し、ゲームの大まかな流れをつかみました。次に、ルール等の確認を行い、試しのゲームを行いました。道具は高価で揃えることができなかったため、ジャックボールは市販のボール、カラーボールは室内用ペタンクのボールを代用しました。さらに、試合を上手に運ぶためのポイントをチームで話し合いました。最後に、対抗戦を行ってゲームを楽しみ、その後試合を通して感じたことを全体で交流し、ボッチャの魅力について考えました。



ココがポイントです！

- ①パラリンピアンから直接話を聞くことで、パラリンピックに関心をもつようになります。
- ②保健体育科の体育理論「文化としてのスポーツの意義」を学習することで、スポーツは違いを超えて人々を結びつけるものであることを理解することができます。
- ③障がい者スポーツを実際に体験することで、障がい者スポーツのよさを実感し、スポーツを通して様々な人々と関わり合うことができますようになります。

オリンピックとの交流の様子



▲ブラインドランナー・ガイドランナー体験



▲ボッチャを体験している様子

実践後の子どもの感想

○今回の授業でボッチャという競技を体験することができて本当に楽しかった。ただボールを投げればいいわけじゃなくて、どこをめがけてどう投げればいいのか頭の中でたくさん考えてすることが新鮮だった。誰でもやることのできるボッチャは簡単だけど、その分他の競技とは違う難しさがあって、練習してもっとうまくなりたい。